

土木環境工学コース(2019年度入学者用) カリキュラムツリー

- 教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)
1. 数学や理科などの理工学基礎を確実に理解させる教育を行います。
  2. 応用力や創造性を重視した専門教育を行います。
  3. 社会における科学技術の役割、技術者の責任と倫理を理解させる教育を行います。
  4. 国際性を培う専門教育を行います。
  5. 地域の自然、社会、産業、文化に関する知識の理解を深める教育を行います。
  6. デザイン能力とプロポーザル能力を養成するカリキュラムを構成します。
  7. アクティブラーニングやグループワークを通じて、周りの人々と協働して学生が主体的に課題を解決することができる機会を提供します。
  8. 情報通信技術(ICT)を用いた情報活用能力を養成するカリキュラムを構成します。
  9. 職業意識を高める実践的なキャリア教育を行います。
  10. 教育に関する情報の恒常的な把握に努め、定期的に点検・評価・改善することで、自律的に教育の質を保証します。

学習・教育到達目標		授業科目名															
大項目	小項目	1年				2年				3年				4年			
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
総合	(A-1) 土木環境工学の基礎知識					構造力学Ⅰ(◎)	構造力学Ⅱ(◎)										
	(A-2) 土木環境工学の応用知識					建設材料Ⅰ(◎)	建設材料Ⅱ(◎)	土質工学(◎)	土質工学演習(◎)								
	(A-3) 社会基盤整備における総合的な解決策のデザイン能力	初年次ゼミ(◎)															
素養	(B-1) 地球環境に関心をもち多面的な視点で考察する能力					主観別科目(○)											
	(B-2) 技術者としての倫理観																
	(C-1) 新たな課題に対応できるよう自主的・継続的に学習する能力					基礎線形代数Ⅰ(○)	基礎線形代数Ⅱ(○)	基礎線形代数Ⅲ(○)	基礎線形代数Ⅳ(○)	多変数微積分Ⅰ	多変数微積分Ⅱ						
知識	(D-1) 自然科学などの基礎知識																
	(D-2) 人文科学および社会科学知識																
	(D-3) 情報を収集・分析する能力																
技能	(E-1) 論理的に記述・発表する能力																
	(E-2) 討論を通して改善する能力																
	(E-3) 国際的コミュニケーションのための基礎能力																
(F)	(F-1) 目標とプロセスの設定能力																
	(F-2) 計画的な仕事の遂行能力																

- 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
- 理工学部では、次のような知識、技能、態度等を身につけた学生に、学位を授与します。
- (知識)
1. 理工学の各分野の基礎知識・技術
  2. 各コースの分野における専門知識・技術
  3. 専門分野に関連する職業・キャリアパスの知識
- (技能)
4. 地域の自然、社会、産業、文化等に関する知識
  5. 種々の科学・技術および情報を利用して社会の要求に応えるためのデザイン能力とプロポーザル能力
  6. 周りの人々と協働して課題を解決する統率力
  7. 与えられた制約の下で課題解決に向けて計画的に取り組む実行力
  8. 日本語による論理的な記述力、口頭発表能力、討議等のコミュニケーション能力
  9. 英語の活用能力
  10. 情報通信技術(ICT)を用いて多様な情報を収集・分析し効果的に応用する情報活用能力
- (態度)
11. 主体的かつ継続的に学習する態度

土木環境工学コースの学習・教育到達目標について

※1 表中の「◎」は各項目に密接に関連し、「○」は各項目に関連する科目である。  
 ※2 学習・教育到達目標は必修科目を全て修得することで達成する。表に記載した科目以外に選択科目があるため、履修案内に記載している進級要件と卒業要件に必ず留意すること。  
 (A)社会基盤整備において、人間の幸福や公共の福祉、地域環境の視点から、社会の要請を多面的にとらえ、確固とした土木環境工学の基礎および専門的知識や技術を用いて、総合的な解決策をデザインする素養と能力を身につける。  
 (B)自然や生命等、地球環境に広く関心をもち、これを多面的な視点で考察する能力、ならびに土木環境工学に関する基礎知識の応用を通じて、自然と社会との関わりやそれら相互の影響を理解し、技術者として自然や社会に対する責任を自覚する素養を身につける。  
 (C)社会がかかえる課題の進化を認識し、土木環境工学において新たに小課題に対応に必要な専門的知識や技術、自主的、継続的に学習できる能力を身につける。  
 (D)数学や自然科学、情報技術などの基礎知識を習得し、自然現象や社会現象のメカニズムを理解する能力を身につける。また、人文科学や社会科学の知識を習得することで、多様な情報を収集・分析し、社会の要請を多面的にとらえる能力を身につける。  
 (E)現象を理解し、問題の所在・解決策を論理的に記述・発表する能力を身につける。また、討論を通じて現象に対する理解を深め、解決策の問題点を改善する能力を身につける。さらに、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。  
 (F)自然環境、社会環境、経済環境、時間等の制約下において、目標とそこに至るプロセスを自ら設定し、計画的に仕事を遂行する能力を身につける。